

## 安全データシート (SDS)

作成日 2010年 7月15日

改訂日 2016年10月 3日

## 【1. 製品及び会社情報】

製品名 : HKクオクール E1  
会社名 : 阪堺石油株式会社  
住所 : 大阪府堺市堺区北庄町2丁3番2号  
電話番号 : 072-229-1261  
FAX番号 : 072-229-1587  
推奨用途及び使用上の制限 : 水溶性切削油剤・研削油剤

## 【2. 危険有害性の要約】

GHS分類 (記載のないものは区分外、分類対象外または分類できない)  
健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語 : **警告**

危険有害性情報 : 皮膚刺激  
強い眼刺激

注意書き

- [安全対策] : 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等を着用する。  
取り扱い後は手や顔などをよく洗う。  
取り扱い後は眼をよく洗う。
- [応急処置] : 飲み込んだ場合 : 水で口の中をすすぐ。無理に吐かせない。医師の手当/診断を受ける。  
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。  
コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。  
その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は医師の診断/手当を受ける。  
皮膚についた場合 : 多量の水と石鹼で洗う。  
皮膚の刺激が続く場合は医師の診断/手当を受ける。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯をする。
- 吸入した場合 : 呼吸が困難な場合には空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させる。  
気分が悪い場合は医師の診断/手当を受ける。
- [保管] : 容器を密栓し、涼しい所/換気の良い場所で保管する。  
施錠して保管する。
- [廃棄] : 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し、廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守し、適切に処分する。

## 【3. 組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 : 混合物  
 化学名 : 混合物につき特定できず  
 主な成分 : 潤滑油基油  
           油性向上剤  
           界面活性剤  
           防錆添加剤  
           硫黄系極圧添加剤  
           消泡剤  
           銅合金防食剤  
           水

労働安全衛生法：名称等を表示および通知すべき危険物及び有害物  
 鉱油 50～60%含有

## 【4. 応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

気分が悪い時は、医師の診断／手当を受ける。

飲み込んだ場合：水で口の中をすすぐ。無理に吐かせない。医師の手当／診断を受ける。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。

コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。

その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当を受ける。

皮膚についた場合：多量の水と石鹸で洗う。

皮膚の刺激が続く場合は医師の診断／手当を受ける。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。

予想される急性症状 : 吸入：咳、頭痛等

及び遅発性症状 : 経口：嘔吐、下痢等

皮膚に付着：発赤、痛み、痒み、皮膚炎等

眼に付着：発赤、痛み等

応急措置をする者の保護 : 被災者を救助する場合は、【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の適切な保護具を着用する。

## 【5. 火災時の措置】

消火剤 : 粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、泡消火剤、散水、噴霧水

使用してはならない消火剤：知見なし

特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物等の有害ガスが含まれることが予想されるので、消火作業の際は、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法 : 関係者以外は安全な場所に退避させる。

周辺の設備等に散水して冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。

消火作業は可能な限り風上から行なう。

消火を行なう者の保護 : 状況に応じた保護具（自給式呼吸器、防火服、防災面等）を着用する。

## 【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項：漏れた場所の周辺から人を退避させる。

保護具及び緊急時措置 : 関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

風上から作業する。

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないようにする。

回収、中和 : 吸収材（乾燥砂、土、ウエス等）で取り除き、密閉できる空容器に回収する。

- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険なく出来る場合は、漏出源を遮断し、漏れを止める。  
盛土、プラスチックシート等で散乱を防ぐ。  
漏出物を吸収材（乾燥砂、土、ウエス等）で取り除き、密閉できる空容器に回収する。  
回収物は適切に廃棄処分する。
- 二次災害防止策 : 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。  
除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。

## 【7. 取扱い及び保管上の注意】

## 取扱い

- 技術的対策 : 【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行ない、保護具を着用する。  
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。  
容器を転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いをしない。  
みだりに蒸気を発散させない。
- 局所排気・全体排気 : 【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行なう。
- 安全取扱い注意事項 : 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等を着用する。  
取扱い後は手や顔などをよく洗う。  
取扱い後は眼をよく洗う。

## 保管

- 技術的対策 : 保管場所の床は、床面に水が浸入／浸透しない構造とする。  
保管場所には、必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 保管条件 : 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。  
容器は密栓して保管する。  
法規に規定された基準に従って保管する。  
混触危険物質と同一の場所に保管しない。
- 混触危険物質 : 【10. 安定性及び反応性】を参照。
- 容器包装材料 : 製品使用容器に準ずる。

## 【8. 暴露防止及び保護措置】

- 管理濃度 : データなし
- 許容濃度 : 製品としてのデータはないが、鉱油のSDSには $3\text{mg}/\text{m}^3$ （鉱油ミストとして、日本産業衛生学会、2010年度版）と記載されている。
- 設備対策 : 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。  
空気中の濃度を暴露限界以下に保つ為に排気用の換気を行なう。  
蒸気又はミストが発生する場合は、全体又は局所排気用の設備を設ける。
- 保護具
- 呼吸器系 : 必要に応じ、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器を使用する。
- 手 : 不浸透性（耐油、耐薬品、耐溶剤）の保護手袋を使用する。
- 眼 : 保護眼鏡（普通眼鏡、側板付き普通眼鏡、ゴーグル型）を使用する。
- 皮膚及び身体 : 不浸透性の保護服、保護長靴、保護前掛け等を使用する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔などをよく洗う。  
取扱い後は眼をよく洗う。  
汚染された衣服を再利用する前に洗濯する。

## 【9. 物理的及び化学的性質】

- 外観 : 褐色液体
- 臭気 : 淡い特異臭
- PH : 8.5～10.5（10%水溶液）
- 融点 : データなし
- 沸点 : データなし
- 引火点 : なし
- 爆発範囲 : データなし
- 蒸気圧 : データなし

蒸気密度	: データなし
比重	: 0.92~0.96 g/cm <sup>3</sup> (15°C)
溶解度	: 水に任意の割合で溶解する (白く乳化する)
自然発火温度	: データなし
粘度	: データなし

#### 【10. 安定性及び反応性】

安定性	: 通常の使用環境の温度条件下で安定。
危険有害反応可能性	: 本製品はアルカリ性のため、酸性物質と反応して発熱する可能性がある。 強酸化性物質と反応する。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 酸化性物質、酸性物質
危険有害な分解生成物	: 燃焼の際は、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物等が生成される。

#### 【11. 有害性情報】

急性毒性	: 経口: 製品自体のデータはないが成分・配合量などから判断してLD <sub>50</sub> =5000mg/kg以上 (ラット) と推測される。 経皮: 製品自体のデータはないが成分・配合量などから判断してLD <sub>50</sub> =5000mg/kg以上 (ウサギ) と推測される。
皮膚腐食性/刺激性	: 製品自体のデータはないが成分・配合量及び皮膚刺激性などから判断して皮膚に刺激性があると推測される。長時間接触すると皮膚表面の種々の組織を侵し、皮膚炎を起こすと思われる。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 製品自体のデータはないが成分・配合量及び皮膚刺激性などから判断して強い刺激性があると推測される。
呼吸器感作性	: データなし
皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	: データなし
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	: データなし
吸引性呼吸器有害性	: データなし

#### 【12. 環境影響情報】

生態毒性	
水生環境急性有害性	: データなし
水生環境慢性有害性	: データなし
残留性/分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

#### 【13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。 都道府県知事などの認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体が行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合は、処理業者等に危険性、有害性を十分告知する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去し、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。

